

事務事業評価表(既存事業)

コード 6-3-13	事務事業名 高齢者大学事業	所管部課 保健福祉部高齢福祉課					
事務事業の概要	事務事業の目的 高齢期の生活を健全で明るく豊かなものにするため、高齢者福祉の増進を図る。	総合計画上の位置づけ (政策)笑顔で暮らすまちづくり (施策)高齢者の生きがいづくりの充(笑2-2) (主要施策)元気高齢者の生きがい推進					
	実施内容、実施方法 英会話・総合講座・健康体操教室等の講座の参加を呼びかけ各会館で実施する。	根拠法令等 老人福祉法第20条の7					
	事業開始時期 平成 14 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					
評価指標の設定	活動指標名 開設講座数	活動指標の考え方(定義) 市が開催のために用意した講座数					
	成果指標名 開設受講人数	成果指標の考え方(定義) 講座を利用している延べ人数(目標 各講座定員枠)					
事務事業データ		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
	事業費(A)		4,982	5,111	5,510	7,424	
	国庫支出金	千円					
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		4,982	5,111	5,510	7,424	
	所要人員(B)	人	0.60	0.60	0.60	0.60	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	4,948	4,964	4,997	4,997	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	9,930	10,075	10,507	12,421	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(開設受講人数)	千円	0.80	0.74	0.75		
	歳入	千円	0	0	0	0	
	活動指標	目標値	回			520	660
		実績値	回	478	505	520	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	人			14,000	17,500	
	実績値	人	12,428	13,605	14,098		
成果指標	目標値						
	実績値						
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	各講座について定数が決められているが、希望の多い講座は定数増で受け入れをして欲しい					
	国・都・他市・民間等 における類似事業	講座内容は、各区・市違いはあるが各々同様の講座を開催している。					
	運営上の制約条件・ 外部要因等						

コード 6-3-13	事務事業名 高齢者大学事業	所管部課 保健福祉部高齢福祉課
---------------	------------------	--------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input checked="" type="checkbox"/> 極めて良好 <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	高齢者人口が増える中、生きがい・学習を求めて講座に参加する利用者が増加
	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	講座の中で、特に体操教室・歪みを正す教室等介護予防の一環の講座を希望する高齢者が多い。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input type="checkbox"/> 問題なし <input checked="" type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	上記必要性で延べたが、体操教室・歪みを正す教室は、介護予防的な教室であり、以前は、健康推進課の事業であった。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input type="checkbox"/> 問題なし <input checked="" type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	講座によっては、初心者対象としていながら実際は経験者でいる者もいて、事業を展開していく中で統一性が取れていない講座もある。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	高齢者の生きがい推進を進める上では、講座を開設する中で学習意欲・きっかけづくりの推進を進めるために継続して実施すべき。

17年度における改善点	体操教室については、応募が各会場とも大きく定数を上回ったため、抽選を考えていたが利用者から介護予防の一環として効果大なので応募者全員参加させて欲しい旨要望があり、財政課と協議の上一部予算の組替えをし、講座数を増やす中で全員の受け入れを行う。
-------------	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など

必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など

効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など

公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など

総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。

拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。

継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。

改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。

抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。

廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。